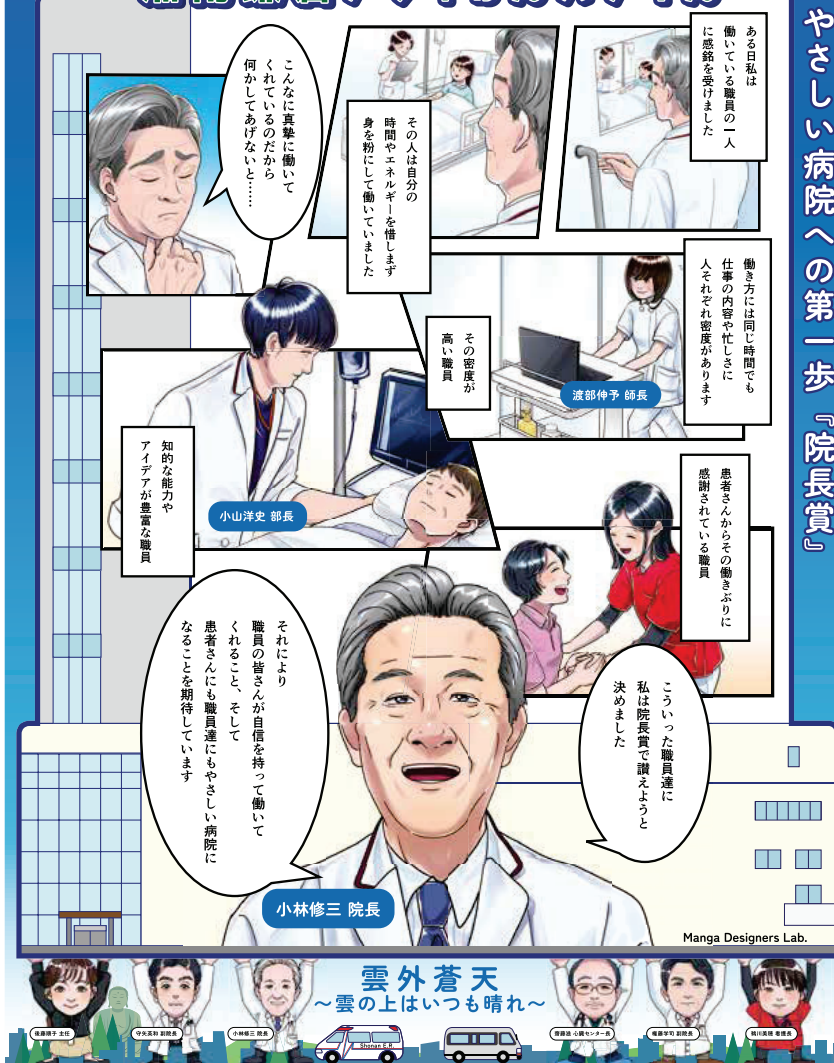


# 湘南鎌倉メディカルスタイル

### #3

やさしい病院への第一歩「院長賞」



※当院の医療現場や職員の日常を描いたマンガを連載します。当院の活動をお伝えするとともに、医療・健康に関する情報も提供していければと考えています。<https://skph.srv.jp/manga/>からもお読みいただけますので是非ご覧ください。

# SHONAN

湘南鎌倉総合病院広報誌

し ょ う な ん め ー る

# Mail

Number 192  
2023 August



SHONAN  
*Mai*  
Vol.192  
2023 August

特集：医療安全管理室のご紹介

委員會誌報六年  
院病綜合倉鑣南湘  
・發行  
集編

▶ 特集 ◀

## 医療安全管理室のご紹介

やさしい病院であるために

当院職員を主人公としたマンガ「湘南鎌倉メディカルスタイル」  
#3 やさしい病院への第一歩『院長賞』

撮影者：患者支援室 大久保 由美  
撮影場所：横浜イングリッシュガーデン

*Safe & Secure*  
MEDICAL CARE  
医療の安全・安心

## 安全・安心な 医療を提供する ために。

「生命を安心して預けられる病院」、「健康と生活を守る病院」が、湘南鎌倉総合病院の理念です。患者さんに安心しておかかりいただける、安全性の高い医療を常に提供することに、私たち湘南鎌倉総合病院は最大限の努力を払っています。「医療安全管理室」は文字通り、医療の安全を最善に管理することを使命として活動しています。今回はインタビュー形式で、「医療安全管理室」を紹介させていただきます。

Q1

どういった体制で活動しているのですか？

河内 順 副院長

生命を安心して預けられる病院

健康と生活を守る病院

大喜多真美子 事務副主任

米山 由佳 副薬剤部長

矢口 紗季 事務主任

江口陽子 師長

権藤 学司 副院長

松田 和美 看護主任

医療安全管理室チーム

A1

医療安全管理室は室長の権藤学司 副院長をはじめ、危機管理対策委員長の河内 順 副院長、専任看護師：江口、専任看護師：松田、専任薬剤師：米山、事務：矢口・大喜多で活動しています。

また医療機器安全管理者、医薬品安全管理者、医療放射線安全管理者と共働し、院内で発生したインシデント※・アクシデントへの対応を行っています。提出されたインシデントレポート内容を日々確認し、インシデントを未然に防ぐために、改善策を検討、実行して、患者さんに安全・安心な医療をお受けいただけるよう日々努めています。

※インシデント ... 事故などで危機が発生する恐れのある状態の出来事をいいます。

モーニングカンファレンス



◀多職種からなるチームで医療の安全にかかわる様々な情報を共有・検討します。

具体的に、活動の一端を教えてください。

Q2

QUESTION

A2

以下、主な一日の

スケジュールです

- 8:30 ~ 前日のインシデントレポートの確認・情報収集
- 8:45 ~ モーニングカンファレンス（前日のレポートの共有・検討。看護部長、副看護部長、医療安全管理者、施設安全管理者、患者相談窓口担当者、品質管理室室長が参加）
- 9:00 ~ インシデントレポート承認作業、インシデントの聞き取り調査や現場での確認、職員からの医療安全に関する相談事項への対応、インシデントデータ集計
- 12:00 ~ 院内ラウンド（週1回）
- 14:00 ~ デスクワーク（事例検討会準備、議事録作成、各部署からの報告の確認、医療安全に関する情報発信）
- 16:00 ~ 患者相談窓口定例会議（週1回）、M & M ミーティング（週1回）
- 17:30 ~ 医療安全管理委員会（月1回）

私がお答えします

米山 由佳 副薬剤部長

院内ラウンド

▲院内をラウンドし、現場で正しく患者確認しているか、薬剤が決められた通りに管理されているかなど調査、改善します。

医療の高い安全性を保つのに、特に重要なことは何ですか？

Q3

QUESTION

A3

ANSWER

大きくは3つあると考えています

- ①医療は様々な職種が協力することで成り立っています。医療安全も同様で、医師、看護師、コメディカル、事務など様々な職種が患者さんの安全・安心を目標に丸となってチームで活動することが重要です。
- ②職員一人ひとりと安全文化に関する意識の向上が重要です。そのために KTY（危険予知トレーニング）や医療安全に関する研修など職員教育を行っています。
- ③報告しやすい職場環境が重要です。些細なことから重大なことまで報告しやすい環境づくりを大切にしています。ミスを責めず「報告してくれてありがとう」と伝えることをいつも心がけています。インシデントレポートは患者さんに影響がない事項に関しても提出をしてもらっています。どんなに些細なことでもそれがやがて大きな事故につながるかもしれません。大事故を未然に防ぐためにも、エラーが生じた際には報告してもらい、改善策など一緒に考えて対応しています。また、何かおかしいと思った時に声があげられる、自分の意見を言える心理的安全性の高い職場づくりを目指しています。



私がお答えします

松田 和美 看護主任

様々な職種によるチーム医療の推進

職員一人ひとりの安全に関する意識の向上（安全文化）

報告しやすい職場環境（心理的安全性）

Q4

QUESTION

院内で取り組んでいる主な活動は？

「患者誤認防止」と「転倒転落予防」に力を注いでいます

- ①患者誤認は、患者さんに大きな影響を及ぼします。患者誤認を起こさないように、必ず二つの識別子で確認します。患者さん自身に【お名前】と【生年月日】を名乗っていただいています。名乗れない場合は患者 ID と患者さんのお名前を確認します。何度も同じことを聞かれて煩わしいと思われる方もいらっしゃると思いますが、安全を守るためにぜひ引き続きご協力をお願いします。
- ②生活環境が変わることで、転倒転落は起きやすくなります。疾患による要因や、慣れない環境、点滴など日常生活と異なる状況下で起こります。また患者さん自身の遠慮などで起きることもあります。転倒転落は入院期間の延長など患者さんに影響を及ぼします。そのため入院中の転倒転落予防に特に力を入れています。

また、院内で発生したアクシデントは、同様のことが起き得る環境になっていないか検討し、注意喚起するためにも、例えば全部署のリーダーが集まる朝の会議や、医療安全管理委員会などで共有しています。昨年度からは、重大事項につながる可能性があった事象を未然に防いだ事例に関して「ファインプレー賞」を設けて表彰しています。

A4

ANSWER



私がお答えします

大喜多 真美子 事務副主任

Q5

QUESTION

「ファインプレー賞」とはどういったものですか？



私がお答えします

矢口 紗季 事務主任

昨年度は 41 件のファインプレー賞が表彰されています。中でも、エスカレーターでの転倒に気づき、倒れて損傷するのを防いだ事例、病棟内で夜間見回りをした際の急変を発見した事例が院長賞として表彰されました。

未然に防げた事例などを全体に周知することで、職員一人ひとりの安全に対する意識の向上につながります。そういった取り組みが安全文化の醸成につながっています。

A5

ANSWER

2022 年度 患者安全表彰 院長賞

患者観察 ベストオブファインプレー賞

杖歩行の外来患者さんがエスカレーター使用中にバランスを崩して後方に転倒した。転倒直後に職員が患者後方に駆け寄り、患者を受け止めたため頭部打撲の損傷が防げた。

臨床工学技士 神山 泰成さん



今後に向けての意気込みを教えてください。

Q6

QUESTION

医療安全は、決して医療安全管理室の活動だけでは成し得ません。病院にかかわる人すべてが協力し、安全・安心な医療の提供ができるよう行動することが大切です。

一人ひとりが安全に対する意識を高め、多職種とのチームワークを発揮し、心理的安全性が高められる環境づくりをしていきたいと思います。

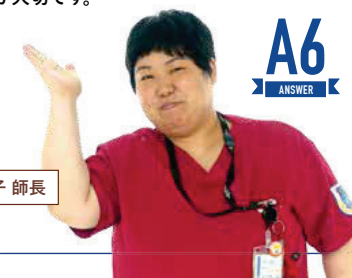
医療者と患者さん、双方が安心して医療を提供、受けられるように活動していきたいと思います。「生命を安心して預けられる病院」でありつづけるために頑張っています。

私がお答えします 江口 陽子 師長



A6

ANSWER



# やさしい病院

「やさしい病院」は私たちの志です。

そのための活動や具体策の一端をご紹介させていただきます。

## 発足 AYAサポートチーム

Kind Hospital

1



看護師：三ツ屋 妙 看護師：久米 さおり

## AYA サポートチーム 発足しました！

がんになってしまうと、その治療のことで気持ちがぐちゃぐちゃになります。しかし、妊娠性に関してはタイミングが合わないことと実施できないことがあります。様々な選択肢がありますので、パートナーの有無にかかわらず私たちに相談ください。

AYA (アヤ) は、Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人) の略で、概ね 15～39 歳の世代を指します。AYA 世代のがん患者さんをサポートするチームがこのほど発足しました。AYA 世代の方々の多くは、がん治療において妊娠性の課題に直面しています。妊娠性とは、男性・女性にかかわらず将来的に子供を持てる力のことで、がん治療により失ってしまう場合があります。こうした課題に対して、将来自分の子どもを授かる可能性を高めるために、がん治療の前に卵子・精子、受精卵、卵巣組織の凍結保存などを行う妊娠性温存療法が確立しています。AYA サポートチームは、AYA 世代のがん患者さんの課題を積極的にこわいし、ご希望に対応できるようサポートするために発足したチームです。

院内には小児科、泌尿器科、産婦人科などが、妊娠性温存について相談を受け、連携する医療機関（聖マリアンナ医科大学、横浜市立大学附属病院など）を紹介する仕組みも構築されています。

## 設置 授乳室 mamaro®

Kind Hospital

2

## 完全個室の授乳室 mamaro® を設置しました！

A 棟（本館）から B 棟（外傷センター・救命救急センター棟）に渡った左側に、写真の mamaro® が設置されました。鍵付きで安心の完全個室型のベビーケアルームで、授乳室等としてご使用いただけます。当院は育児世帯を応援します。



Kind Hospital

## 中庭を開放しました！

当院の C 棟（別館）と D 棟（先端医療センター）のあいだには、ウッドデッキのある素敵な中庭があります。皆様にお使いいただけるよう開放し、テラスとチェアも設けました。お待ち合わせや談話などにお使いください。



## 開放 中庭 (C 棟 D 棟)

ご使用いただける曜日・時間帯  
月～土曜日 7:00～19:00（日・祝日は閉鎖します）

Kind Hospital

## 開催 救急フェスタ

9月3日(日)

## 救急フェスタ 開催します！

毎年 9 月 9 日は救急の日。これにちなみ今年度は 9 月 3 日（日）、救急フェスタを開催します。4 年ぶりに開催することになり、皆様へ救急をご存知いただけるよう、スタッフ一同張り切っています。

予約制ではありません。当日お時間にフラッと立ち寄りください。



▶病院救急車



▲前回2019年の様子(ERクイズ)

## 2023年9月3日(日) 湘南鎌倉総合病院にて

■第1部 13:00～14:00

リアル1分で伝える ER クイズ

■第2部 14:00～16:30

救急車展示、なりきり体験、展示コーナー、体験型スタンプラリー（血圧測定・聴診器・BLS・AED・包帯の巻き方など）